

リレー記事 No.97

## これからの「持続可能な開発のための教育(ESD)」

国連がESDを推し進める期間として位置づけた2005年から14年までの10年を締めくくるとESDユネスコ世界会議は、11月12日「あいち・なごや宣言」を採択して閉幕しました。同会議は、3日間で150の国・地域から閣僚級の代表者76人を含む1000人以上の参加があったそうです。エコけんは、その併設イベントに参加し、活動継続の志を新たにしました。

15年以降の活動の推進を促す「あいち・なごや宣言」の主な内容は次の通りです。

- ・ESDは持続可能な開発への重要な手法と再確認
- ・先進国と発展途上国双方の努力を促す
- ・政府や市民団体、企業、学校などのすべての関係者の連携を促す
- ・各国政府に目標の設定や取り組みの評価を求める
- ・ユネスコに資金面を含め支援を求める
- ・日本政府が表明した、全世界の優れた活動を表彰する制度を評価

“地球規模の課題に教育の力を”というのがESDですが、それに求められる多様性が、わかりにくさや評価の難しさと合いまり、その一般化はまだ道半ばというのが実情でしょう。「この10年でSD(持続可能な開発)については、多くの人の知るところとなった。それにE(教育)が力を発揮するのはこれからだ。」



会議のようす

と、日本政府と共にESDを提案された団体のリーダーはおっしゃっていました。故ネルソンマンデラ氏の名言に、「教育は最強の武器です。教育によって世界を変えることが出来ます」という言葉があります。多様だからこそ持続可能性は高まります。今後、より多くの方によるESD実践が広がることを期待します。

## 私にとっての寄付

エコけんは、認定NPO法人をめざしています。ところが、その必須条件である『寄付』への思いは、実働メンバーでさえ、さまざまなようです。

今回、『私にとっての寄付』について、正直なところをメンバーに聞いてみました。よろしかったら、感想や皆さんにとっての寄付についてメールください。お待ちしております。



▲メール・電話

エコけんのこと始めはボランティア。大事だと思えば、自分の労力や時間、そして自分のお金を持ち出すことは当たり前だった。自分が大事だと思うものに、自分の持っているものを自分の好きに使うのだから、ある意味気楽。ところが、しろくまプロジェクトで寄付と向かい合ううちに、寄付は、みんなの課題をみんなで取り組もう！と呼びかけることだし、ちょっぴり自分の力をみんなのために、とボランティアを呼びかけてきた1パーセントクラブのお金版じゃん、と整理されてしまうと、じゃどうやって??とかなり悩ましい日々。共感を生み出すのにひな型はない。来し方もビジョンも個性もまるっと試されているようで恐くもあります。ひゃ〜。

寄付は強制されるものではなく自らの行為でしたい。人間は感情が大切だから趣旨には賛成でも表現がまずいとちょっとね……でも幸せのお裾分けはこれからも続けたい。

自分は共感する活動や団体に寄付をしている。寄付をもらう側としては、個人的には、交友関係のない人に共感してもらうまでには至っていない。エコけんの寄付は、今現在、困っている人に対してではなく、未来への投資といえる。やっぱり、団体や個人を信頼できないと寄付してもらえないかな。

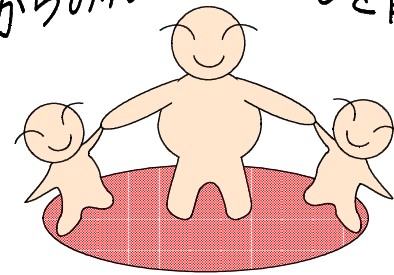
団体の活動が、自分の目で見てわかり、共感できる、そして出しやすい金額であれば寄付しようかなと思う。

寄付は気持ちをいただく事だと思います。その気持ちを込めて、学校へ出向いています。

知り合いには言い切らんでおります。企業などには、パンフレットがあればお願いして回る方が言いやすい……です

寄付と言えば涙がでるようなかわいそうな人や災害被害にあった人にするものだと思っていました。エコけんへの寄付はそれとは違います。それだけに活動内容や趣旨を知ってもらった上で賛同し支援してもらわなければならないと思うのですが、身内を褒めてるような感じと説明に自身のない私はモジモジのままです。

子どもは社会の宝  
だからみんなで子どもを育もう



寄付をもらうのに、びびってしまいます。「お金ないわけじゃないでしょ。」と言われ、うまく説明できなかったのはなぜかなあ。「私の代わりにやってもらう、そのための活動費」うん。そうなんですが。やっぱり、なかなか言い出しにくいです。

### エコけんのホームページアドレスが変わります!

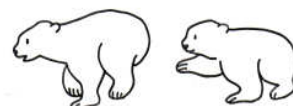
New! <http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/>

2月までは、旧アドレスでも接続できます。はやめの変更をお願いします。



## H26しろくまプロジェクト報告会(しろくまカフェ)のご案内

エコけんニュースがお手元に届く頃には、全てのしろくま教室が終了している予定です。本年度の実施目標は13校でしたが、県内3地区の小学校から目標以上の16校のお申し込みをいただきました。この教室を資金面から支えていただいた「寄付とも」の皆さまをはじめ、エコけんの活動に興味・関心を持ってくださっている方々をに、プロジェクトの報告及び「しろくますごろく改訂版」披露の会を、下記の通り開催致します。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



**日時** 平成27年 2月 8日 ㊿ 13:30~15:30

**場所** 古賀市南区公民館ホール (古賀駅より徒歩5分)

古賀市天神1丁目22-10

**参加費** 300円 (お茶代として)

**問合せ** Tel/Fax 092-944-6450  
E-mail eco\_ecoken@ybb.ne.jp



昨年のしろくまカフェ参加の皆さんからいただいたご意見を元に「しろくますごろく」の改定を無事終わりました。ご協力ありがとうございました。今回も皆さんで体験を楽しんでください。



前年のようす



## 未来を創るうインタビュー

No.41 株式会社スペースRデザイン もちつき課

牛島 光 氏

リノベーションなど、福岡市を中心に古いビルやマンションに新しい価値を付けて再生させ、まちづくりの提案をされている企業、(株)スペースRデザインの牛島光さんにお話を伺いました。“もちつき課”という、ちょっと「うふっ」と笑顔にさせてしまうネーミングの課に所属の牛島さんは、天神のビルの屋上で稲を育てるワークショップ「たのしエネ」の管理人さんもされています。「たのしエネ」は、エコけんも一員として参加していますが、稲の成育中、台風やすずめからお米を守る為、いつも細心の注意をしてくださっています。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか

A. 今あるものの活用に価値観を見直し、小さなあたりまえに感謝することの積み重ねが重要だと思う。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

A. 今ある状態になるためには、それなりの過去や積み重ねがあると考えているので、目の前のことをスルーしないようにしている。



未来を創る私の思い

### みんなが楽しく生きていける日常の感動をつくっていく

趣味の自転車は、学生の頃から10年近くになるそうです。佐賀県の三瀬峠はよく走りに行かれるとのこと。車では感じることのできない風や達成感が得られ、走った後のご飯がおいしくなるそうです。幸せに生きるために、目の前にあるものに感動できる自分を作りたいとお話され、自転車にも通じる場所があるのだと思いました。御自身はパワフルな人間ではではないとおっしゃってましたが、いえいえ若いのにその落ち着いた佇まいは、安心感があり人を結びつける強さを感じました。

《Yっち》



次回のぼらんず

※ぼらんずとは、毎月のボランティア清掃です。

雨天中止

2月28日(土) 9:00~1時間程度 花見松原清掃(予定)

詳しくはお問合せください。



## 未来を創るインタビュー

No.42 社会福祉法人 古賀市社会福祉協議会 会長 渡 信人 氏

『古賀市健康福祉総合センター サンコスモ古賀』内にある、社会福祉協議会 会長の渡信人さんにお話をうかがいました。

古賀市社会福祉協議会（社協）は、古賀市における社会福祉事業やその他の社会福祉を目的に『こまったときはお互いさま たより合えるまち』を目指して、住みなれたまちで、生きがいを持ちながら、安心して末永く生活ができるようにと様々な福祉の向上に取り組まれています。

エコけんは社協の特別団体会員です。特典として年一回、保有のバスを借りることができます。先月、北九州の安川電機とシャボン玉石けんに視察見学に行きました。社協のバスの貸し出し制度を有効に使わせていただいています。

Q. 未来のために今何が重要だとお考えですか。

A. 蓄電の技術革新により、すべて太陽光から得られるような動力が必要と考えます。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけておられることがあれば聞かせてください。

A. ・家庭の電灯をLEDへ変更  
・米や野菜づくりを通して地産地消  
・太陽光発電を設置（電気とガスとの併用）



未来を創る私の思い

### すべてのエネルギー源を太陽光から

渡さんは、ご先祖から受け継いだ広い畑で米や野菜づくりをされていて、しかも有機栽培にこだわっておられました。まさに地産地消ですね。また、収穫したお野菜をご近所にお裾分けをしたら、ご近所さんからも何か届くのだとか。野菜が取り持つご縁と、ちょぴり照れながら地域でのつながりをお話下さいました。

《Kまま》